

令和 6（2024）年度 事業報告書

※事業の成果

（1）子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業

【ふくいチャイルドライン事業】

令和 6 年度の活動としては、これまでの福井ラインと奥越ラインに加え、新たに嶺南ラインを開設することができました。しかも、これまでのフリーダイヤルではなく、オンライン電話での開設となり、より多くの子どもたちの声を聴くことができる体制となりました。

また、全国的な取り組みとして、エリア地域の枠が外れ、全国の子どもたちの声を聴くことになり、様々な地域の子どもたちとつながることができるようになりました。

月 1 回の継続研修では、摂食障害についての講座のほか、チャイルドライン支援センターが制作した動画を活用して「傾聴」について理解を深める機会を設けました。

受け手養成講座では、自殺対策やファミリーホームの実践、子どもの権利条約、不登校支援などについて学び、新たに 6 名の受け手登録につながりました。

その他、子ども食堂に出向き、参加する子どもたちに向けてチャイルドラインについて説明する取り組みや、チャット導入のための支え手研修を開催しました。

【みんなのあそび事業】

・おはなしふくぶく（人形劇サークル）

7 日間 5 か所のこども園や特別支援学校で公演しました。

・わくわくにっこりロハスマーケット参加

10 月 5 日(土)・6 日(日) 金津創作の森

プレーパークを予定していましたが、5 日は前日までの悪天候により午前中はアルモンデあそびパーク(美術館ミュージアム 2)でスマートボールや空き缶釣り堀などで遊びました。5 日の午後から 6 日は太陽の下で大きな布に思い思いの絵を描いたり、ここで出会った子ども同士積み木を高く積んだり、芝生の上でただ寝っ転がっている子がいたり自由に遊ぶ様子が見られました。

・福井市中央卸売市場開設 50 周年記念 市場フェスタ参加

10 月 12 日(土) 福井市中央卸売市場

バルーンショーやマジックショーなどのステージショー、バナナのたたき売り、マグロの解体ショーなど盛りだくさんの中、子どもたちが自分のお店を出す『子どもフリーマ

ーケット』や『子ども縁日』を開催しました。

・こどもフェス開催

11月16日(土) エルパホール・アピタースペース

主催：子どもフェス実行委員会

共催：福井県子ども NPO センター

子どもの権利が守られるよう、たくさん子どもたちと楽しく遊びながら「子どもの権利条約」の周知をしました。体験コーナーではスマートボールや輪投げなどの「子ども縁日」を開催しました。

【木田児童クラブサポート事業】

2024年度は木田児童クラブ63名、第2木田児童クラブ50名の児童を受け入れ、(1)事業企画に関するサポート(2)支援員の教育に関するサポート(3)保護者へのサポートの3つの柱を基本に運営業務を支援しました。昨年同様、木田地区の児童クラブ運営事業者が集まり、入会手続きについて確認しました。兄弟での入会の配慮や受け入れ人数の調整など、話し合うことができました。引き続き、同地区内での児童クラブが連携できるように関わっていきます。

【子どもアドボカシー事業】

子どもアドボカシーとは、子どもの声を聴いて、子どもの声や思いが、その周りにいる人や社会に届くように支援することを言います。国連子どもの権利条約第12条に明記されている意見表明権に関わる事業として、2023年度から子どもアドボカシー事業を開始しました。

2023年4月に施行された「こども基本法」にも“児童の権利に関する条約の精神にのっとり”と明記されたように、ようやく日本でも子どもが権利の主体者である、子どもの権利のための法律ができました。この「こども基本法」に基づき、こども家庭庁を中心としたこども政策の策定等に子どもの意見が反映されていくことが加速すると考えられます。

2024年度は、アドボカシー先進国であるイギリスのように全ての子どもの声が聴かれる社会を目指す子どもアドボカシー学会との共催で、当センターとして2回目となる子どもアドボカシー基礎講座を7月に実施し、38名の参加がありました。また、今年度は新たに専門講座を3月に開講しました。福井県社会福祉士会の後援もいただき、県内外から21名の参加がありました。福井県社会福祉士会ではすでにアドボケイトの派遣事業を実施しており、今後も協力しながらアドボケイト派遣実績を増やしていく予定です。

2024年度はこども家庭庁が発表したこども大綱とそれを勘案して策定された都道府県こ

ども計画に基づき、各市町村単位でもこども計画を策定・実施・評価することが求められました。一方、福井市や鯖江市で子どもの権利に関する条例の策定も行われ、公共事業や子どもに関わる現場で今後さらにアドボカシー事業が普及していくと考えられます。今後も、多団体とも協力しながら県内での普及活動やアドボケイト派遣事業にも力を入れていきたいと思っています。

(2) 子どもと文化に関する活動の交流、サポート及び人材育成事業

【表現ひろば事業】—2024 年度 公益財団法人公益推進協会「JM 基金」による事業—

2024 年度メンバーは新団員が 4 名加わり計 13 名で 7 月にスタートしました。3 年目となったこの活動もいまだ手探りで進めている現状ではありますが、今年度は今までで一番子どもたち主導で動いていた気がします。7 月の新メンバー募集に先駆けてたくさんの人に劇団【プラム】を知ってもらいたいと、不特定多数の方が行き交うアピタ大和田店のイベントスペースで公演をしました。9 月の実験公演も子どもたちがやりたい！と声をあげて決まりました。初の映像作品も発表しました。11 月と 12 月には初めて公演のオファーをいただき、子どもたちはとても嬉しそうでした。「依頼先に迷惑をかけないようにしよう」と、どんな作品がふさわしいかなど初の依頼公演の稽古を慎重に進めていました。3 月末より福井市中学生クラブ活動地域移行の取り組みで劇団【プラム】は受け入れ先となっています。ホームページに、いつでも稽古見学可能と掲載したところ、見学希望者も増えています。

中高生を対象にした舞台裏方ワークショップも昨年に引き続き開催しました。舞台裏方に興味がある中高生が多く、あっという間に募集定員が埋まりました。

子どもたちの身近にもっと『演劇』があるようにと、大人対象の演劇ワークショップ&講義を 7 月に、講演会を 2 月に開催しました。参加者を集めることが難しい現状ですが、参加していただいた方からは「演劇にはこんな素晴らしい力があったんだ！」とか「表現する事はこんなに楽しいものなんだ」といった感想がありました。

(3) 文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び提携事業

【子どもと文化企画事業】

文化企画事業では学校や公民館、子ども関係団体など様々なニーズに応じて舞台や人形劇、子どもの遊びを企画、紹介しています。また、子どもたちを対象に劇鑑賞会を主催したり他団体と共催で開催もしています。

昨年に引き続き、福井市演劇鑑賞事業(幼児演劇鑑賞教室)も開催され、演劇作品を紹介しました。

(4) 出版及び広報事業

広報誌『こども channel』かわらばん第1号を発行し、子ども NPO センターの支援者、子ども関係団体、教育機関、公共施設などに送付しました。ホームページや X、Facebook、YouTube、Instagram、公式 LINE でも情報を発信しています。

(5) 行政、各分野 NPO との連携及びネットワークづくり事業

・子ども関係団体との連携

・行政関連委員会

- 福井県福祉のまちづくり推進協議会（県障害福祉課）
- 福井県障害者差別解消支援協議会
- 福井県立美術館運営協議会
- 地域福祉活動推進会議
- 社会福祉法人 福井県共同募金会評議委員会
- 福井市都市計画マスタープラン等策定委員会委員
- 福井市社会福祉審議会委員
- 福井市総合計画審議会委員
- こどもまんなか応援サポーター
- 親と子のリレーションシップほくりく
- こどもフェス実行委員会